

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	未来へ繋がる居場所づくり「結」 当事者と関係性を築く居場所づくり
資金分配団体名:	中国5県休眠預金等活用コンソーシアム
実行団体名:	特定非営利活動法人オカヤマビューティサミット
実施時期:	2021年7月～2021年12月
事業対象地域:	岡山県
事業対象者:	①DV・暴力、生活困窮による一時避難場所や住居の補助を必要とする親と子 ②今後の暮らしや仕事に関して、気軽に相談できる場所を必要とする親と子 ③相談や技術習得を通じて、経済的・社会的自立を目指す親と子

Version 3.2

日付: 2022年1月5日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>ひとり親家庭支援の一環で、2020年に他団体と協働し、新型コロナウイルス感染症による影響についてのアンケートを行った。この調査から新型コロナの影響で「失業や仕事の減少による収入の減少と支出増加による家計圧迫」や「学校や園の休校や外出自粛による子どもや大人のストレス増加」「恋人や夫から、暴言や暴力を振るわれることがかなりある」と回答したケースを確認した。</p> <p>DVや虐待、生活困窮等からの一時避難から就労支援までを総合的にサポートできる「居場所」となる拠点整備をし、①～③に取り組む。今回の申請では緊急性の高い①②について重点的に取り組む。①②を経た対象者を、団体の別事業で実施している③に接続し、当事者の社会的自立を促す。</p> <p>①一時避難所の運営：24時間体制とし、いつでも避難できる環境を整える。</p> <p>②居場所・相談：親子カフェなどを通じて気軽に足しげく通える居場所とし、支援を必要とする潜在層へのアプローチを図る。仕事・育児・生活の居場所として開設する。</p> <p>③就労支援：就労相談を開設し、経済的自立を目指し企業へ繋げる。必要な方には美容技術取得支援を行う。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>■課題設定について</p> <p>LINEの24時間相談受付は時間帯を気にせず子、夫、親族に聞かれずに相談できる点が良いとの声があった。当初想定したDVや生活困窮の相談の他に離婚前、精神疾患の相談、父子家庭の相談もあった。父子家庭対象の相談事業も今後対応策を検討したい。</p> <p>■事業設計について</p> <p>①一時避難・シェルター運営は目標値に届かないものの相談件数は多かった。当事者には頼れる場所があるという安心感を抱いてもらった。しかし短期間での物件取得・シェルター開設は初めてで、当事者への周知まで数ヶ月を要したこともあり周知の難しさを感じた。今後もリーフレットの活用やSNS発信にて周知に努める。</p> <p>②もったいないマーケット等を開催し、気軽に通える場として潜在層へのアプローチを図った。雑談から当事者が実は深い悩みを抱えていることに気付くことができ早期対応が可能となった。相談が無料ででき、いつでも寄れるという生活困窮の当事者目線での対応が喜ばれた。当事者が安心して来れる場所づくりのために、今後はスタッフのケアやヒアリング能力向上が必要がある。</p> <p>③就労支援はこれまでの事業を活かし、適切な就労先情報をお伝えできた。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
コロナで影響を受ける従事者	居場所の不足	一時的に避難が必要とされる方に一時避難場所として活用されている。	一時避難の世帯数	4世帯 身の安全が確保されている状態	2世帯(3名)	<p>■達成した数値</p> <p>入居に関する相談件数は7件と想定を超えたが、実際に避難された方は2件となった。</p> <p>■数値の背景・要因（ニーズなど）</p> <p>新型コロナが単独で影響していることは少なく、元より親族や恋人によるDVがあるケースが、新型コロナの感染拡大に伴い、深刻化していることを再確認した。コロナの影響による失業や在宅時間の増加により、関係が悪化し、身体的、精神的、金銭的DVが深刻化顕在化したケースが大半である。そのことが原因で避難を余儀なくされている状態が明らかとなった。</p> <p>■取組や対応</p> <p>・Aさん(県内・ひとり親家庭)：コロナの影響で派遣社員の更新がされず実家からのDVが悪化し一時避難を利用。今後、就労し実家からの自立を希望。住居の選定と求人票の選定を一緒に行った。支援継続中。</p> <p>・Bさん(県外・単身世帯)：恋人による身体的DVを受け、避難先を探しオリーブの家を訪ねたが満室により利用できない状況で、当団体へ連絡が入り利用に繋がったケース。本人確認書類も携帯も持っていない状況だったため警察へ行き、捜索願の不受理を申し出、その後岡山市へ転入手続きの支援をおこなった。就労に向けて支援継続中。</p> <p>■今後の課題</p> <p>今回取り組んで、婚姻中のDVの他に、新たに親族からのDVや離婚前後、単身世帯にもニーズがあることがわかった。様々なケースに対応できる体制づくりとして、行政、警察、専門家、民間団体と深く連携していくことが課題である。</p>
その他	相談先の不足	生活や仕事の相談をできる場所として機能している。	相談件数	100件 月/20件の生活や仕事に関する相談が寄せらる。専門機関など適切な場所に繋ぐことができている状態。	118件	<p>■達成した数値</p> <p>目標100件に対し、実績118件（延べ数）となった。</p> <p>■数値の背景・要因（ニーズなど）</p> <p>コロナ禍で活動できなくなっている子育て支援団体もある中で、SNSを通じて、当団体が開所したことを知った利用者からの問い合わせも多かった。加えて、開所日当日から、他団体からの紹介による電話相談もあった。</p> <p>相談件数の17%が、夜間～早朝時間の対応だった。「仕事をしていると行政の窓口対応時間にいけない」「家族の目を盗んでわずかな時間でないと連絡ができない」「精神疾患をもって夜間に急に落ち込むが話ができる相手がない」などの背景があり、24時間対応で、対面のみならず電話やLINEを使った対応にニーズを感じた。</p> <p>■取組や対応</p> <p>相談内容は、「就労」「子育て」「金銭面」「離婚前後相談」に大別できる。</p> <p>就労相談：ヒアリングを行い一緒にwebで仕事検索を実施。美容業希望の場合は当団体の就労支援に繋ぎ対応。</p> <p>子育て相談：引きこもりの子どもの進路・受験に関する相談の場合は、引きこもり支援を行う民間団体を紹介。</p> <p>金銭面の相談：行政、民間の支援団体、その他弁護士等の専門家に繋ぐ等して早期解決を図った。</p> <p>離婚前後相談：当事者が、ひとりで行動に起こすことが困難な状況にある場合は、弁護士や行政への同行支援等をおこなった。</p> <p>■今後の課題</p> <p>DVや生活困窮、子育て、就労相談の他に、離婚前、精神疾患の相談、父子家庭における相談など様々な相談が寄せられた。幅広く柔軟に相談を受けたことで、支援先へのきめこまな接続や寄り添い支援を無料もしくは安価に行う機能の不足を感じた。様々なケースに対応するために、関係機関とのさらなるネットワークづくりが課題である。</p>

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>支援を継続して実施することで</p> <p>①DVや生活に困窮している当事者が、悩みを抱え込まず、適切なところに頼ることができ、解決に向かって生活の立て直しができる状態。</p> <p>②安心して暮らしが送れるようになり、新たな就労への意欲を持つことができる場所として機能している状態。またそこから具体的な相談や就労に向けた技術習得にチャレンジするなど、具体的な行動が見られるようになる状態。</p>
考察等	<p>①LINE公式アカウントの活用して、遠慮なく24時間相談ができ、必要とすれば行政や団体、専門家につながる仕組みづくりまで取り組むことができました。これにより、「困ることがあった時には頼れる場所がある」という安心感を受益者に提供できるようになった。当事者の変化として、スタッフからのアドバイスを実行し、非正規雇用から正規雇用へのステップアップや円満離婚して生活の立て直しができることを確認できた。「話を聞いてもらえることで自分ひとりじゃない。なにかあったら頼れる場所がある」という安心感で悩みが解決された」という声も届いている。今後、父子家庭のニーズに対応し解決を図るために、今後男性のシェルター利用体制を整え、父子家庭特有の悩み解決に取り組んでいく必要がある。</p> <p>②遠慮なく24時間就労相談ができる仕組みづくりまで取り組むことができました。当事者の変化としては、精神疾患を持っていても、今後の就労について不安になった時に相談できる環境があることで、就労に必要な勉強の意欲が出たり、新たにチャレンジしたい職業が見つかるといった変化を確認できた。</p> <p>①②の取組を今後強化し、上記アウトカムのさらなる達成をめざす。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
物件取得	計画通り	7月12日に物件取得済み。以前の施設では主に北区にお住まいの方が自転車での来所またはコインパーキングに停めて来所されており、駐車料金が負担になることで躊躇される方がいた。今回の施設を取得してからは駐車場8台完備のため、市内の北区、中区、南区、東区の広範囲に渡り来所されており、相談の際にもゆっくり時間をかけられることができ、平均して1時間半ほどしっかりとヒアリングができるので、より一人一人に寄り添った支援ができると感じている。
物件、備品整備	計画通り	物件取得後、スタッフとボランティアさんによって清掃、整備を実施。
一時避難受け入れ・相談場所のために行政や他団体との連携や必要な調整に取り組む	ほぼ計画通り	現在50の行政・専門家・団体と連携。今後も必要な連携先を開拓し、絆を深めていく。
施設開設	計画通り	8月5日に開所。開所日当日早速相談の連絡が入った。
一時避難受け入れ開始	計画通り	8月5日に開所。20日より24時間受付。生活用品や日用品に不便がない準備ができた。
居場所・相談事業開始(常時) もったいないマーケットなどの開催(毎月1回)	ほぼ計画通り	8月5日開所になったため、それまでの期間に相談やもったいないマーケットは以前の施設を活用する。駐車場8台完備になったこと。1世帯あたりの滞在時間は以前の施設に比べ10分程増えていることで相談しやすい環境作りになっている
就労支援	計画通り	これまで美容技術取得後の就労支援のように思われていた。コロナの影響で仕事を失った人にも当事者が望む就労支援もサポートできている
技術取得支援	計画通り	就労相談から、他事業にて開催している美容技術取得就労支援講座へ4名引き繋げられた。いずれもカリキュラムが2022年以降に終了するため今後も技術取得支援ならびに就労支援を継続していく。以前の施設周辺のコインパーキング料金が1回1,000円前後と支援者から負担になるとの声を受けていたが無くなり、支援者の負担が無くなったとみられる。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>■コロナに起因するもの以外で確認できた（対応の必要があったと感じた）ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性からの相談が多い ・県外からの問い合わせがあった <p>■他団体と協働したことによる成果（波及効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志塾フリースクールの村本さんにつながることで、今後引きこもりで学習支援が必要な方への協力を得ることができた ・岡山ビューホテルさんとの連携がとれ男性や15歳以上の男児をもつ親子の受け入れも可能となった <p>■24時間相談受付においては下記が多く寄せられた。</p> <p>①離婚前後の相談、②親族からの金銭的・精神的DV、③父子家庭および男性からの相談、④連携先機関より当団体への依頼が多数寄せられた</p> <p>活動として①弁護士へ離婚相談や同行支援をする、②来所やLINEや電話で話を聞き不動産への引継ぎ。一時避難での今後生活プランを立てる。③女兒の思春期についての話や離婚についての話をする。④行政からの依頼にもケースごとに柔軟に対応した。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>「どこへ相談していいかわからないけど結へ連絡してみた」という相談者の声を多く確認した。これまで行政支援にうまく繋がっていなかった当事者に、多少なりともリーチできるようになったと捉えている。</p> <p>居場所のひとつである「もったいないマーケット」では、最初は悩みも話してくれなかった受益者が徐々に心を開いてくれる変化を確認できた。また、男性からの相談もあった。現在は「父子家庭」「15歳以上の男児を持つ母」のためのシェルター受入ができないため、今後対象の拡大を計画したい。</p> <p>■当事者と当事者を取り巻く環境の変化</p> <p>当初の想定通り、コロナによる失業や減給で生活困窮の陥っている状況があった。しかしコロナ単独での問題は少なく、家族間の問題や子どもの障がいの問題等、複合的な課題を抱えているケースが大半である。問題の早期解決と社会的自立を支援するには、住まいや職に関する様々な機関や専門家との連携、24時間相談受付の仕組みが、今後よりいっそう必要となると考えられる。</p> <p>■新たに把握したニーズと今後の取組</p> <p>新たに父子家庭によるニーズを確認した。それらに総合的に対応するためにネットワークの拡大と体制整備に取り組みたい。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
岡山市子ども福祉課	岡山市の子ども支援・ひとり親支援について随時相談する。
岡山市女性が輝く課	課へ8月に開所した話をし連携も図る。
ゆうあいセンター	結のパンフレット持参。活動周知。岡山県社協とも繋いでもらう。
ウィズセンター	結のパンフレット持参。活動周知。
北長瀬ハッシュタグ	結のパンフレット持参。活動周知。
岡山市社協(中央)	結のパンフレット持参。活動周知。生活困窮者の相談。ひとり親家庭(離婚調停中)の住居支援策を聞く。他相談時に連携を取っている。
岡山市社協(中区)	地域担当職員が来所。具体的に中区の交流会や民生委員との調整、支援品の連絡を随時くださり当事者へお渡し。
岡山県社協	結のパンフレット持参。活動周知。岡山県居住者協議会へつないでもらう。
公益財団法人愛染会	岡山県ひとり親支援センターの運営団体。岡山県ひとり親支援センターへ訪問時に一緒に話す。
岡山県ひとり親家庭支援センター	これまでも技術取得にて当事者との連携はあった。結が開設したことで技術取得以外にも生活物資支援の依頼も入っている。
岡山県母子寡婦福祉連合会	岡山県ひとり親支援センターが窓口の為、岡山県ひとり親支援センターへ訪問時に一緒に話す。
岡山市母子寡婦福祉連合会	結のパンフレット持参。岡山市子ども福祉課へ渡す。
岡山市ひきこもり地域支援センター	岡山市社協と一緒に対応
岡山市寄り添いサポートセンター	岡山市社協と一緒に対応
地域こども相談センター	岡山市社協と一緒に対応
岡山県居住支援協議会	担当者の方へ結のパンフレット持参。活動周知。
富山公民館	9/3富山公民館にて澁谷所長、花房主任、地域担当職員にご挨拶。ひとり親を取り巻く環境、地域について話し合う。富山地区は西側(施設側)の福祉の場が少なくこれから結を利用して色々催しなどできたらと話す。結のイベント活動についても原案を提出すれば毎月地域に配布されるたよりに載せてくださるとのこと。
東山公民館	9/16東山公民館へ副理事と挨拶に行く。
富山小学校	11/29富山小学校にて校長と教頭にご挨拶。24時間相談窓口についてや連携を依頼する。
旭東小学校	12/7旭東小学校にて教頭にご挨拶。24時間相談窓口についてや連携を依頼する。チラシを配ることも可、持参または郵送でとのこと。
平井小学校	12/1平井小学校にて教頭にご挨拶。結の活動全般についてお話しが進む。対象のご家庭が多くいるとのこと。今後チラシなど配ることも可。
旭操小学校	校長へご挨拶。24時間相談窓口について。他施設とも連携しているが、結も紹介したい。チラシ設置も可
三敷小学校	12/2三敷小学校にて教頭にご挨拶。24時間相談窓口についてやこういった活動は勉強になると言っていた。今後チラシなど配ることも可。
富山中学校	教頭へご挨拶。結の活動の事を話す。チラシなどは送付していただきたいの事
東山中学校	教頭へご挨拶。結の活動の事を話す。チラシなどは送付していただきたいの事
警察(生活安全部子ども女性安全対策課)	担当課にご挨拶。岡山県女性支援センターとの連携になるが、民間シェルターがあることは課で共有しておく
NPO法人あかね	8/20あかね訪問。代表に結の活動内容についてお話し。当事者のお子さんに引きこもりや障がいについてのお悩みが多いため、今後連携を依頼する。
志塾フリースクールおかやま	代表と互いに訪問しあう。志塾に来ているひとり親家庭の方をつなぎたい。シェルターも対象者への案内をしたい。
社会福祉法人クムレ	新しくできた居場所へ訪問。岡山～倉敷間でお互いに連携できるようにしよう。発達障がい児の相談についても連携体制をとる。

児童家庭支援センターどんぐり	11/4センター長、担当職員にご挨拶。同じように相談場として活動されており、就労支援など連携を依頼する。施設にマッサージ教室に来てほしいなどとも言ってください。11/16どんぐりからの紹介で当事者が相談に来所。お礼の電話をする。
フリーデザイン	就労支援におけるモチベーションなどについて連携依頼
NPO法人UFE(うてんて)	住居支援時に相談する
阪井土地開発(代表がUFEの人)	住居支援時に相談する
NPO法人オリーブの家(津山シェルター)	9/9zoomにて代表、NPOセンターと情報交換を行い、経緯や周知方法、運営で気を付けることをお話しする。施設の中を見学させていただける了承を得る。 11/1スタッフ全員で事務局およびシェルターを見学。互いにシェルターを構える地域が違うため、より当事者にとって良い連携になるよう依頼。
認定NPO法人子どもシェルターモモ(若者)	毎月もったいないマーケットでお配りするポーチやおもちゃを提供していただいている。施設開設にあたって意見交換及び施設見学をする。
認定NPO法人未来(笠岡)	施設開設にあたって、当事者への配慮など相談をした。
ことこと(様溪)	8/5育児と仕事、就労支援を必要とする当事者を紹介して下さる。8/26様谷さんが来所されて活動についてお話し。10/11コロナによってフリーマーケットが延期されて服が大量にあり困っているとのことで寄付くださる。
ハルハウス(水島)	連携を取り合い、当事者支援をしている(生活・住居・仕事・物資)
(有)ウイルパワー(倉敷)	開設時に電化製品の価格交渉により低価格で対応してもらった。他、食器やその他必要なものなどあれば相談を受付けてくれる。
NPO法人チャリティサタ(本)	当事者の方へ配布する本を200冊提供。他企業からの服の提供
山本賢昌法律事務所	離婚調停や離婚相談対応の連携
富山地区民生委員児童委員協議会	10/19結へ会長・副会長・担当者、中区社協担当職員が来所。結の活動についてお話し。次回の富山地区民生委員児童委員協議会の定例会にて結の活動をお話しさせていただけることに。 11/12富山公民館にて富山地区民生委員児童委員協議会の定例会開催され、最初の20分間程結の活動をお話しさせていただける。
岡山県女性相談所	10/26岡山県女性相談所に課長にご挨拶。親子で入りたい、規定に添えない親子を結に連携して下さるようになる。一件当事者支援の相談も入る。
認定NPO法人かものはしプロジェクト	11/5共同創業者を含む6名とNPOセンター職員が結に来所。活動内容や課題について話し合う。物資の提供がかものはしに来るのでそれを結へお渡しすることで連携はとれるかとの質問があり、可能と回答。
子ども食堂岡ちゃんち	10/26中区の子供の居場所ネットワーク交流会にてお会いし、子ども食堂に来るお母さんと美容技術取得支援、就労支援を必要とする人がいるので紹介させてください、と連携していただけることになる。
就労継続支援B型事業所ジブンワーク	就労支援による連携をする

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	28,734,100	28,764,020	100.1%
	管理的経費	465,900	465,900	100.0%
合計		29,200,000	29,229,920	100.1%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	山陽新聞[2021.11.28]「KOTOMO基金第一回活動報告会&シンポジウム」パネリストとして登壇した際の記事 山陽新聞[2022.1.17]「岡山のNPOシェルターを開設」
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	対象無し
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	施設内に掲示
4.報告書等	下記リーフレット等で取組を紹介 ・「結」リーフレット(400部)・団体のニュースレターvol.5(300部)

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	社内規定の中に緊急時のフローチャートを記載し、社内体制を整えた。また、スタッフ増員に当たって年間の育成計画や、作業の割り振りをするなどして管理体制を整えた。
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	幹事が内部監査を行う予定
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部及び外部に窓口を設置、JANPIAの窓口を利用。

XII. その他

自由記述

■事業実施を通じてうまくいった工夫点、エピソード等

【1】うまく支援できたケース

②Mさんの事例：離婚前相談でよく話を聞くと「急に旦那から離婚の合意書を出され離婚してくれの一点張りで話し合いがしたくても蒸発しかけた」「現在パート勤務で扶養を抜けた後が心配」「転職も考えている」「離婚後の生活が不安で仕方ない」ということだったので「扶養を抜ける年収額や、法定福利費はおおよそどのくらいかかるのか等、税についてのアドバイス」「働きやすい環境ならば正社員雇用を会社へ打診してみてもどうか」「離婚後の住まいや必要な生活費」をひとつずつ話合った。結果、本人が申し出たことで正社員雇用になり、生活に安定が出たことで離婚の決心を固めて、円満離婚ができすっきりしたと報告を受けた。その後ももったいないマーケットを通じて月1回は顔を合わせる事ができており、特段困窮することはなく自立した様子がみられる。

④Dさんの事例：コロナ禍の影響で失職してその後就労したが体調不良により退職。意欲がおきず岡山県を行う高校生への支援金の申請もできない。スタッフより支援金の申請をしようとアドバイスし岡山県庁への同行支援により支援金申請が完了した。

【2】工夫点／周知について

①開所当初は行政、連携機関、連携団体に改めて挨拶に出向き、当事者を支援する人からの「紹介・口コミ」により、相談しにいきやすい状態を築いた。

②その後公民館や地区民生委員、小学校中学校など地域の方が集まる場所へ挨拶に出向き周知を図った。

③岡山市が行う親子応援メールにて2回、当事業の取組案内のメール配信をすることで①②ではつながることができない層とつながり、シェルター利用までに至った。

④SNS配信を積極的に行い、当事者に呼びかけ、実際に技術取得・就労相談は半数がSNS配信をみての相談受付となった。

①～④までを行うことで相談件数が予想を上回り、シェルター受け入れ相談にもつながる工夫をした。

【3】工夫点／休眠事業における居場所利用者の、法人内・他事業への接続（③就労支援）

休眠事業において相談対応したひとり親のうち、就労支援が必要な当事者については、法人内の他事業に接続して支援を実施した。「技術取得をし就労につなげたり、就労支援にて収入の安定を図る」という点をアウトプットに定め、事業実施した。結果と考察は以下の通り。

・達成した数値：具体的に就労支援をした件数は11件。

・数値の背景・要因（ニーズなど）：「子育てによる不安」「離婚による不安」「コロナによる不安」等における転職相談が多数だった。具体的には、コロナによる影響で派遣の更新がされない、飲食店勤務で出勤日数を減らされるなど、正規雇用をされていない方が、特に失業・減給されており、転職希望に繋がっているようだった。

・取組や対応：11件のうち4名は、当団体が実施する「技術取得・就労支援事業」に繋がった。相談のあったケースに対しては、技術取得支援の説明や、生活環境のヒアリングを行っており、一緒に求人票を確認しながらプラン立てをおこなっている。ヒアリングするなかで必要であれば各相談に応じた支援団体の紹介をした。技術取得支援においては、現在4名ともに支援中である。技術取得中にも随時求人票を公開しており、面接や就労を希望する場合には、企業へ電話の問い合わせや面接日時の設定を行い、当事者の状況の早期改善をめざしている。また本事業終了後も定期的な連絡を行い、社会的自立を促していく。

・今後の課題：就労しながら技術取得するため、個々のスケジュールに合わせた講座の開催に対する感謝の声をいただいた。求人に関しては正規雇用のニーズが高かった。今後も随時企業へアプローチし、求人票を獲得することで就労支援をより強化していく必要がある。